

# The Global Leaders

## グローバルリーダーズ



**会**計職業専門家団体やその資格など、会計プロフェッションを取り巻く状況は様々に変化し、会計職業専門家団体が抱える課題も多様化している。会計職業専門家資格の種類や付与団体の増加、世界的展開を拡大する団体の存在や、競争力を高めるための団体間の合併、そして、会計職業専門家を目指す学生のニーズの変化など、様々な課題が持ち上がる中で、これらの課題に各会計職業専門家団体がどのように向き合っているのかなどを知るため、本連載では、各組織のリーダーの声を紹介している。

シリーズ第1回目のイングランド・ウェールズ勅許会計士協会(ICAEW: Institute of Chartered Accountants in England and Wales)会長のHilary Lindsay氏による寄稿記事に引き続き、第2回目は、CPA Canadaの会長兼CEOのJoy Thomas氏に対するインタビューを紹介することとしたい。

なお、会計プロフェッションに係る



### 第2回

CPA Canada会長兼CEO

## Joy Thomas



る資格制度や各会計職業専門家団体の権限等は、各国・各団体が様々に異なり、日本の制度とは異なる様相を呈していることに留意が必要である。

CPA Canadaは、2013年1月にカナダの3つの団体<sup>1</sup>が合併し設立された協会で、トロントに本部を置くほか11の地域拠点が国内外にある。カナダでは、伝統的に、活動領域やサービス対象の区分から、3つの異なる団体がそれぞれ会計資格を付与してきたが、活動領域等による資格の分けが不明確になってきたこと、会計プロフェッションを取り巻くグローバル環境の変化により、国内の競争よりも国際的な競争力や影響力の強化に取り組む必要性が高まったことなどから、団体間の相違を超えて、カナダとして1つの団体にまとまることと決定され、2013年1月の新組織の設立につながった<sup>2</sup>。

Thomas氏は、2016年4月にCPA Canadaの会長兼CEOに就任してい



る。Thomas氏は、1993年にカナダ管理会計士(CMA)資格を取得、企業の財務部やCFOとして勤務の後、CMAノバ・スコティア、バミューダ及びアルベルタで勤務し、2009年からはCMAの会長及びCEOを務めた。Thomas氏は現在、国際会計士連盟(IFAC)のBoardメンバーでもある。



## Interview インタビュー

**Q** まずは、CPA Canadaの概要をご教示ください。

**A** CPA Canadaは、カナダ国内及び海外の会員を合わせて約20万人の会員がいる、世界でも最大級のビジネス及び会計プロフェッションのための専門家団体です。CPA Canadaの会員である勅許職業会計士(CPA: Chartered Professional Accountants)は、財務及び税務の専門家として、また、戦略的思考、ビジネス感覚、管理スキル及びリーダーシップの面でその価値が高く認められています。カナダCPAは、成功を生み出す鍵となる意思決定を司るため、予期せぬ出来事に備え、複雑性を理解し、情報の分析において重要な役割を果たしています。

カナダCPAの資格は、伝統的に長くカナダに存在していた3つの資格(勅許会計士、公認一般会計士及び公認管理会計士)が統合されることで創設されました。カナダCPA資格の保持者は、カナダ国内及び海外の様々な機関や組織においてシニアレベルの役職を担っており、専門性及び信頼の面で高度な基準を満たした資格として認知されています。

カナダの国土の広大さと同じように、我々の会員も幅広い分野で活躍しています。約20%の会員がいわゆる会計事務所業務(public practice)に従事していますが、その他の大多数の会員は、企業、政府、NGOといった非営利組織、その他学術分野で活躍しています。プロフェッションの多様性の面からも、男性が約57%、女性が43%とバランスが保たれています。退職等の理由により、業務を現在行っていない会員を除くと、会員の約34%が40歳未満の若手、65%が40歳以上というような年齢構成になっています。

CPA Canadaとして、会員が現在の経済環境の変化や新しいビジネスの潮流を常にリードし続けるよう、また、未来の構築においてリーダーシップを発揮できるよう支援を行っています。

**Q** 3つの団体の合併の話がありましたが、合併の結果もたらされた最も大きな利益は何であるとお考えでしょうか。

**A** カナダCPAの目指すビジョンは、卓越した専門家資格として、世界的に尊敬されるビジネス及び会計資格を実現することです。このビジョン実現に向けた最初の最も重要なステップが3つの団体の合併であり、この合併により、それぞれの団体の強みが合わさり、迫りくる挑戦に立ち向かっていくことができるようになりました。

合併を通じて、影響力、影響の範囲、認知度及び保持する資源の面で、会員や学生、その他利害関係者、そして、社会一般に対して、より多くの価値をもたらすことができる組織に生まれ変わりました。合併されて1つの組織となり、カナダとして1つの立ち位置が形成されたことで、国内外の利害関係者にとっても、カナダ人会計プロフェッションとは誰を

指すのかということが明確になりました。

CPA Canadaは、金融リテラシー、気候変動や税務制度といった重要な事項についてカナダ政府との協働取組みを進めたり、また、助言の提供なども積極的に行っています。

**Q** 政府との協働や助言提供についておたずねいたします。例えば、会計や監査に関するルール、あるいは一般的なビジネス又は金融にかかわる政策や法律に関連して、政府、国会議員、規制当局といった関係諸機関にCPA Canadaはどのようにかわり、どのような影響を与えているのでしょうか。

**A** 国内においても、国外においても、CPA Canadaは強靱で影響力のある団体としてとらえられています。

## 1. 税 務

まず、税務に関連しましては、連邦政府及びその他大多数の州及び地域の税法についての権限を保持するカナダ歳入庁(CRA: Canada Revenue Agency)と枠組み合意を形成しています。この枠組み合意は、相互協力に関する合意で、税金にかかわる課題のうち、カナダ国民及びビジネスにとって重要な事項についての貴重な対話の機会を継続的に維持しようというものです。この枠組みを通じて、税務に関する専門的知識や見識の相互共有が図られ、長い目で見て、カナダにとってよりよい税務制度が構築されることが期待されています。

税務に焦点を置くことは、プロフェッション全体にとって重要なことです。税務制度の維持向上は、迫りくる人口変動に伴う課題に取り組んだり、カナダのビジネス環境の競争優位性を維持し続けるためにとても重要な政策手段の1つです。そのため、我々はカナダ政府に対し



て、国の税務制度についての包括的な見直しを行うよう求めています。この見直しは、1960年代以降行われていませんが、カナダの経済社会にはとても大きな変化がこの間に起きています。

これまで、その場しのぎともいえる政策が様々に行われ、これによって、本来、対応が必要な根本的な税務枠組みやその信頼性担保に対する問題が先送りされてきました。今、何層にも重ねられたこの政策を取り除き、国家の生産性向上、経済成長及び国際的競争力強化のために、税務制度を正していく必要があります。

単純明確化され、効率的な税務制度を確立することで、納税者の法律遵守の向上やCRAの行政管理業務の改革が促されると考えています。

## 2. 金融リテラシー

金融リテラシーの向上もカナダにとって重要です。CPA Canadaは、金融資産の管理及び保持、そして、未来に向けた投資に関する知識をより多くのカナダ人が持つような取組みを進めています。

CPA Canadaは、連邦政府の国家金融リテラシー戦略に協力し、ボランティアとして、あらゆる年齢の市民に対して金融リテラシー教育を提供できる会員を1万1,000人以上確保しています。また、実際に有用となるような出版物を公表したり、CPA Canadaのウェブサイトに情報を掲載したりしています。我々のこの取組みは、市民が金融知識を広げるための先進的取組みの1つとして、国際的にも認知されています。

## 3. 気候変動

CPA Canadaは、気候変動を戦略的優先取組み事項として位置付け、ビジネス界のあらゆるセクターにおいて、気候変動にかかわるリスクと機会が認識され

るよう取り組むことを決定しています。我々は、気候変動を、ビジネス上の課題であるとともに、社会、環境及び化学にかかわる事項として位置付けています。

ビジネスの観点からみると、気候変動は、企業戦略、リスク管理及び監視、財務運営及び株主価値に深くかかわります。会計職業専門家が伝統的に保持するスキルは、環境及び社会的課題から湧き起こる市場からの期待やビジネスニーズに各組織が応えていく上で、これまで以上に有益なものとなり得ると考えます。

気候変動に関する課題は、一部の企業や産業により大きな影響を与え、リスクや機会を生み出すことでしょう。カナダCPAは、これらの挑戦と機会を識別し、効果的な事業計画の創出に貢献することができます。

## 4. 国際分野の重視

CPA Canadaは、IFACに深くかわり、大きく貢献しています。私は2014年11月からIFACの理事会メンバーを務め、ガバナンス委員会のメンバーでもあります。さらに、例えば、世界銀行が主導して昨年ウィーンで開催されたREPARISカンファレンス<sup>3</sup>に登壇し、カナダにおける3つの団体の合併の話や、ガバナンスに関する事項について話す機会をいただきました。また、この同じカンファレンスにおいて、経済成長に焦点を置いたパネルや会計職業専門家の貢献や会計職業専門家団体の役割についてのパネルに出演するなど、海外のカンファレンスなどでも話す機会を多くいただいています。

CPA Canadaはまた、国際的な基準設定審議会や、グローバルな会計組織、開発途上国にある会計団体に知識や経験の提供を通じて貢献しています。昨年は、金融安定理事会(FSB)議長で

イングランド銀行総裁でもあるMark Carney氏を招聘したセミナーにおいて、気候に関連する財務開示に関する議論を取り上げ、カナダの著名なビジネス及び投資関係者が参加する機会を提供しました。また、世界的な高級服飾メーカーのKerning社のCSO(Chief Sustainability Officer)のMarie-Claire Daveu氏を招いたセッションを開催するなど、CPA Canadaに対する国際的な認知と評価は高まっています。

**Q** CPA Canadaにおけるいくつかの取組みをご紹介いただきましたが、プロフェッションの向かう方向、そして、今後3年間のCPA Canadaの活動の焦点について、改めてお聞きかせください。

**A** カナダCPAは、専門的スキルにおいて強固な基盤を有しておりますが、リーダーシップ、戦略、チームワーク及びコミュニケーションの分野に関する知識も備えています。不安定さが増し、不確実で複雑性が増す世界において、これらのスキルと知識の集合体ますます重要になってくると考えています。

したがって、CPA Canadaでは、将来志向の戦略に焦点を置くことを重視しています。技術革新、人口変動やその他メガトレンドといわれる気候変動が会計プロフェッション及びカナダ経済を圧倒しようとしています。イノベーションの速度が加速し、新しい技術の拡散が継続するにつれて、ビジネスモデルやその手続における混乱への早急な対応が必要となってきています。今、会計プロフェッションは、そのサービス提供の現場において、そして価値の提供において、実質的な革命のスタートラインにあるといっても過言ではないでしょう。



CPA Canadaが取り組む活動の1つに、外部監査人、内部監査人、企業関係者及び学識経験者から構成される監査におけるデータ・アナリティクス検討委員会があります。この委員会は、監査人によるデータ・アナリティクスの利用に関する潮流、そして、企業活動が技術によってどのように変革しているかを監視しています。CPA Canadaではまた、将来、会計職業専門家が備えるべきスキルを識別するための専門家の新しい能力枠組みも模索しており、資格付与の段階からキャリア形成に至るまで、会計職業専門家が時代の先端をいくよう担保するための活動を継続しています。

複雑性を増す世界経済において、投資家及び財務諸表の利用者にとっていかに有益な財務報告を担保していくかという意味で、財務報告の進化も会計職業専門家の直面する挑戦です。国際的な検討の進捗状況を見守るとともに、様々な利害関係者から意見を集めることを通じて、財務報告の未来に影響を与えるトレンドについての情報を共有できるよう準備を進めています。

冒頭でもお話ししましたとおり、カナダでは、生産性の向上、経済成長の達成、

そして、国際的な競争優位を保つために税務制度の改革も推し進めています。この取り組みの重要な側面には、カナダとして国内及び海外における脱税の問題への対応を高めるという要素もあり、この取り組みも重要なものの1つです。

**Q** カナダにおける監査市場、監査業界のトレンドはいかがでしょうか。現在、監査人や監査事務所が直面する挑戦や機会にはどのようなものがあるでしょうか。

**A** 監査の世界は今、大きなスポットライトを浴びており、監査が今後さらに価値を提供し続けるためにどのように進化できるかに焦点が当てられています。現在、CPA Canadaにおいて、監査業界の状況に関して大きな変動がもたらされるような取り組み事項はあまりありませんが、データ・アナリティクスの利用、サイバーセキュリティに関連した保証業務、統合報告などの新しい報告モデル、天然資源に関する報告、持続可能性報告のほか、経営者による財政状態及び経営成績の検討と分析(MD&A)、プレス公表、会計原則に基づかない指標(non-GAAP

measures)といった情報に対する保証のあり方などが現在直面している課題の一部です。

これらの課題の中心にあるのは、新しい潮流や加速する要求に、監査人、特に、資源の限られた中小規模事務所やそこに勤務する会計職業専門家がどのように対応していくのかということがあります。監査業界とともに進化し、CPA Canadaの会員が新たな挑戦と機会に立ち向かえるよう、CPA Canadaとして価値を創造していきたいと考えています。

**Q** CPA Canadaや会計プロフェッションをめぐる様々な変化がある中で、多くの課題に対して柔軟かつ迅速に対応を進めていらっしゃるがよく分かりました。ここ数年の出来事でカナダCPAにとっての大きな変化と、今後のCPA Canadaの活動の方向性についてよく理解ができました。

**A** もちろん、最も重要なものとして冒頭でもお話した合併がありますので、合併の結果、会計プロフェッションと公共の利益について、1つにまとまって声を上げることができるようになったことが大きい変化ですが、全体



今、会計プロフェッションは、そのサービス提供の現場において、そして価値の提供において、実質的な革命のスタートラインにあるといっても過言ではないでしょう。



的にみますと、カナダCPAを取り巻くここ最近の変化は、前例がないほど大きなものが多いと感じています。

変化の量だけでなく、その速度も課題であり、戦略の策定とともに、変化する市場に適應するため必要な技術を備えておくことも含まれています。

ビジネスの世界は、規制の強化、市場、製品及び競争の劇的変化によってその複雑性を増し、これによりさらなる透明性の担保が求められるようになりました。技術がもたらす影響は高く、情報の収集、分析、管理及び保証のあらゆる側面で会員である会計職業専門家の業務に影響を与えるようになりました。気候変動などの課題が顕著になっていく中で、気候変動といった事項にどのように取り組んでいるのか、投資家はより明確な説明を求めるようになりました。カナダ自体が低炭素経済へ移行する中で、気候に関連した開示に対する期待が変化しています。よい企業統治を通じて、気候変動に関するリスクや機会に関する開示を向上させ、投資の意思決定が十分な情報に基づいて実施されるよう担保しなければなりません。会計は、よい意思決定(decision-making)の核を成します。そして、会計職業専門家は情報の適切な分析、報告及び保証業務を通じて、企業における価値創造と維持に貢献することができると思っています。

**Q** 経済や技術の変化が進む中で、個々の会計職業専門家を支援し、その活動の品質や範囲を維持拡大していく上で会計職業専門家団体の果たす役割も重要性が増してきているのではないかと感じています。続きまして、会員の維持獲得という側面で、CPA Canadaが直面する課題をお聞かせいただけますでしょうか。

**A** 多くの会員が退職年齢を迎える中で、CPA Canadaは人口変動の課題に直面しています。これは、貴重な経験と知見を有した会員を失うというばかりでなく、会計職業専門家に対する社会からのニーズに応えていけないという問題に直面する危険も含んでいます。したがって、カナダの労働市場に諸外国の優れた専門家を受け入れていくという連邦政府の取組みをCPA Canadaは歓迎しています<sup>4</sup>。

さらに、カナダの先住民社会への支援にもCPA Canadaとして取り組んでいます。元カナダ首相のPaul Martin氏が始めた「Martin Family Initiative」を支えるため、CPA Canadaも教育指導補助(mentorship)プログラムに参画し、会計職業専門家や会計事務所が先住民の若者の教育指導を補助し、学校教育においてよい成績を取られるような支援や取組みを推進しています。このプログラムの焦点は、高校の卒業率を上げ、学生の高等教育への進学を促進し、ビジネスや会計の分野などでのキャリア形成を考える学生に支援を提供するというものです。先住民の文化を尊重し、十分に配慮した支援活動を実施するため、学生は、現在の家庭環境、学校及び地域社会の枠組みの中で教育的な補助を受け、これを通じて便益を享受することを目指しています。

また、CPA Canadaと先住民出身の財務担当者から成る組織であるAFOA Canada (Aboriginal Financial Officers Association of Canada)は、協力覚書の締結を通じて長期的な協働関係を構築しています。高い基準の遵守、説明責任の担保、強固な意思決定へのコミットメントを通じて、組織と地域社会の発展に寄与する専門家を代表する組織として、それぞれ活動をし、協力することに合意しています。

このほか、CPA Canadaがもたらす最も大きな便益としては、キャリアを通じて能力育成へのコミットメントがあります。CPA Canadaの提供する継続的能力育成は、それぞれの個人のキャリアに合わせて最も適した方法や分野で資格取得時に形成されたスキルが維持され、継続的に向上されるよう組み立てられています。CPA Canadaの組織として直面する課題には、いかにこれらの継続的能力開発事業の内容の適切性を担保し、誰にでもアクセスしやすい状況に維持するかということがあります。

会計職業専門家は、常にリーダーとして、そして変革の主導者として、組織の成功を導くために信頼を担保し続けなければなりません。雇用主やその他の利害関係者と協働することで、CPA Canadaはその資格教育プログラム及び継続的能力開発プログラムを適応させ、進化させ、市場のニーズに応えることのできるような会員の育成に取り組んでいきます。

**Q** 会計職業専門家を目指す学生の増加を図るという意味でも、また、社会貢献という意味でも、CPA Canadaが取り組む先住民の学生に対する教育支援については、非常に興味深く拝聴いたしました。規制の強化や、技術革新など、変化のスピードやボリュームが増加していく中で、カナダの若手会計職業専門家が特に直面しているような課題がありましたら、ご教示ください。

**A** どの分野においても、初めての環境に慣れ、そこで直面する課題に対応していくためには調整が必要です。業務量や職場における学習が増える中で、同時に家族との時間を大事にしたり、読書をしたり、ハイキングに出



かけたり、人生を楽しむ機会を持ちたいということもあると思います。

CPA Canadaでは、キャリアを通じて会員が成長し、成功するよう手助けするための能力開発に関する資源を、様々、提供しています。これらは、例えば、カンファレンス、研修講座、ウェブ上で提供するセミナーなどの形で提供され、その内容は、専門的なもののほか、コミュニケーション、問題解決、意思決定、自己管理、チームワーク、リーダーシップというような内容も含んでいます。

これらの資源の提供、そして現場での経験を通じて、カナダの若手会計職業専門家がスキルの向上を図るとともに、複雑で様々に変化する環境に対応し、そこで成功を収めるための自信を形成するお手伝いをCPA Canadaでは実施しています。

**Q** 若者にとって、カナダCPAの資格はどのような点で魅力的でしょうか。また、過去存在していなかった活躍の機会が、今特に顕著な分野があればご教示ください。

**A** 新しいCPAプログラムは始まったばかりですが、今後、2年から3年の

うちに、毎年7,000人から9,000人程度の会員増加を予想しています。

様々な道程をたどって資格を取得できる制度が担保されているという柔軟性の面で、カナダCPA資格への期待は高まっています。すでに何かしらの職業に就いているビジネス人材、キャリア変更を考えている個人、会計士としてすでに国際的に活躍している個人、会計専攻ではない学生など、様々な個人のニーズを満たすよう、資格の制度設計がなされています。

さらに、カナダCPA資格は、国際会計教育基準審議会 (IAESB) の策定する教育基準、評価及び実務経験基準、そして他の国際的な会計職業専門家団体の要求する教育基準と同等又はそれ以上の要件を求めています。これによって、統合後の新しいカナダCPA資格においても、これまで他の団体と締結していた会計職業専門家資格の相互承認合意や団体のメンバーシップの相互承認合意などが継続されることが担保されています。

新しいカナダCPAの資格は、会計だけでなく、ビジネスの資格でもありますので、会員は様々な機会に恵まれ、資格の魅力が向上しています。

カナダCPAの資格プログラムは、雇用主である企業等が抱える様々な環境変化や課題に対応し、そのニーズを満たすよう設計されています。変化の速度は新しい技術の進展に伴い加速し、ビジネスや組織は変革を余儀なくされ、情報管理が非常に大切になっています。

伝統的に会計職業専門家に必要とされてきた核となるスキルのほか、カナダCPA資格プログラムでは業績管理に関する理解、コミュニケーション、戦略といった分野も取り扱っています。技術革新が社会をリードする現代において、データ・アナリティクスやデータ管理といった、現在及び将来に直面する可能性のある課題にも十分に対応できる専門家の育成に意識的に取り組んでいます。

もちろん、これらの全てのスキルの根本にあるのは、プロフェッションとして働くということはどういうことか、倫理を踏まえて行動するとはどういうことかといった事項も含まれます。

CPA資格が現在の労働市場にもたらす最大の便益は、予期せぬ出来事に備え、複雑性を理解し、データ分析を通じて、ビジネスにおける成功の原動力になるということです。

新しいカナダCPAの資格は、会計だけでなく、ビジネスの資格でもありますので、会員は様々な機会に恵まれ、資格の魅力が向上しています。





**Q** 最後に、「女性」という観点からいくつかご質問したいと思います。

部下や部員の能力向上を奨励したり、個人同士の信頼構築に力を注いだり、チームワークの構築やモチベーションの形成を重視するといったような要素が、女性リーダーの特徴として取り上げられるようなことがあります。その他にも女性特有の素質や能力が職場環境にもたらす変化は様々あると思います。ぜひ、女性リーダーシップ像としてお持ちの考えがありましたら共有いただければと思います。

**A** カナダ、そして世界的にみても、多様なスキルを活かし、新しい問題解決方法を提案できるビジネスリーダーが求められています。この点で特に女性に変革をもたらせると感じています。その点で、CPA Canadaの11の地域組織のうち、8つの団体で、女性が会長として就任していることを喜ばしく思っています。

女性のリーダーシップは、新しい観点を引き出します。企業が女性の経済的影響力を無視するのは賢明ではないと考えます。企業活動において、女性を活かしていくことは、その顧客を知り、そのニーズを満たしていく上でもビジネス上の賢明な意思決定であると考えます。取締役等としてより多くの女性が関与する企業は、その他の企業と比べて、財務的にも、また、企業統治、企業の社会的責任、イノベーション、そして、優れた人材の保持といった非財務の観点でも優れた結果を出していると研究が示しています。

CPA Canadaの女性リーダーシップ推進審議会(Women's Leadership Council)では、女性会員の能力育成とキャリア形成に役立つような以下のような取組みを進めています。

- 女性会員のライフサイクルに応じ

たキャリア形成を支援するためのツールキットと無料研修の提供

- 女性会員の保持と、組織内での昇格を支援するための組織向けのツールキットの提供
- 女性リーダーシップ促進の観点からのビジネス向けQ&A
- 米国公認会計士協会(AICPA)との共同による「Global Women's Leadership Summit」の年次開催

**Q** 会計プロフェッションでのキャリアを目指す女性に対して、アドバイスがありましたら頂戴できればと思います。

**A** 私が提供するアドバイスは、特に性別にこだわったものではありません。

会計職業専門家資格は、とても優れた資格で、様々なキャリアの選択肢を与えてくれます。

例えば、CPA資格取得の初期段階では、スキルの構築だけでなく、ネットワークの形成や重要なコネクションの形成など、その後、何年も続く人間関係構築の礎となる素晴らしい機会があります。これらのネットワークは、魅力的な雇用機会につながったり、仕事やキャリアアドバイスを求める上でも信頼のおける仲間を得られることにつながるでしょう。個人のキャリアを通じて、計画をする力を身に付けること、昇進に必要な要件は何かを理解し、メンターや支援をしてくれる人を識別し関係性を構築していくことが成功につながると証明されている要素の一部です。

本日は貴重な機会をいただきありがとうございました。

(注)


- 1 カナダ勅許会計士協会(CICA)、カナダ管理会計士協会(CMA)及びカナダ公認一般会計士協会(CGA)
- 2 詳細については、「カナダにおける職業会計専門家団体の合併及び資格の統合について」(『会計・監査ジャーナル』No.704 MAR.2014 p105-p111)を参照。
- 3 REPARISは、「Road to Europe - Program of Accounting Reform and Institutional Strengthening」の略。南・東ヨーロッパ諸国において企業による財務報告制度が確立されることを支援し、欧州連合(EU)において実施されている関連法規の遵守を進めるための取組み。アルバニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、クロアチア、コソボなどの国が参加している。REPARISは、オーストリア、ルクセンブルグ及びスイス政府による支援によって運営されており、ウィーンにある世界銀行の財務報告改革センター(CFRR: Centre for Financial Reporting Reform)が事務局を務めている。詳しくは、CFRRのサイト(<http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/COUNTRIES/ECAEXT/EXTCENFINREPREF/0,,contentMDK:23650584~menuPK:9755227~pagePK:64168445~piPK:64168309~theSitePK:4152118,00.html>)を参照。
- 4 カナダでは、国内の労働市場の活性化と、高い専門知識を持つプロフェッショナルの受入れを通じて国の生産性を維持向上しようという政策の下、移民の積極的受入れを行っており、会計職業専門家も対象となっている(<http://www.cic.gc.ca/english/immigrate/skilled/index.asp>)。

(日本公認会計士協会事務局

渡場友絵)

\* 必須研修科目「職業倫理」研修教材

教材コード J 0 1 0 1 2 0

 研修コード 1 0 0 1

履修単位 1 単位